

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア 株式会社		
事業所名	グループホーム 虹の家 白石		
所在地	札幌市白石区平和通1丁目北3-14 (電話)011-867-5303		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月13日	評価確定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】( 21年 11月 1日事業所記入 )

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 3月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人、非常勤 2人、常勤換算	6.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~39,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 27,000円	
敷金	有(円)	(無)	暖房費: 5,000円(11~3月)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	365 円
	夕食	365 円	おやつ	104 円
	または1日当たり		1,134 円	

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ファミリークリニック、清和記念病院、宮本歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム 虹の家白石」は閑静な住宅街にあり、周囲の住宅に溶け込んでいる。運営者は、利用者との触れ合いの中で十分なケアが行われる環境として1ユニットを重要視し、平成16年に開設したホームである。法人の総務部長、管理者は家庭的な環境で利用者の生活を途切れなく支えるという、その実現に向けて職員と一緒に実践している。笑顔のある暮らしを基本にして職員の育成にも熱心に取り組んでいる。地域貢献をする中で住民との温かい交流があり、利用者は好きなことをして寛いだ雰囲気の中でゆったりと過ごしている。職員は利用者の意向に沿って個別の対応を大切にしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で取り上げた理念の考えを再認識し、また家族間で話し合う場を提供するなど積極的に取り組んでいる。区内のグループホームネットワーク連絡網の活用と夜間を想定した避難訓練に住民の協力を得る取り組みは進行中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は昨年と同じように全員で取り組み、完成したものを閲覧できるようにしている。管理者は外部評価を実施した当日の様子、また結果が出た時など2回に分けてカンファレンスで報告し、今後の取り組みについて話し合っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催され、家族代表、また利用者は交代で参加している。会議では事業所の現状報告と今後の取り組みを説明し、外部評価の結果も詳細に報告し意見を求めている。徐々に事業所への理解が深まり、好意的に受け止められている。また事業所に地域高齢者集会所を設置し、市に出前講座の講師を依頼し地域の人に参加してもらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の「虹のたより 白石便」に個人への簡単なメッセージや職員の異動なども載せることを考えている。年に2回、行事の後に家族間だけで話し合う場を設けたり、家族の来訪時には細かいことも良く話し合い、意見などは連絡ノートに記録し職員間で共有している。また内容によっては家族、管理者、経営者と話し合い、速やかに改善している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や地域から情報を収集し、運動会、納涼祭、収穫祭などの行事に参加している。また、事業所のクリスマス会には住民の参加を呼びかけ、町内会の有志がボランティアで歌や踊りを披露した。日常の挨拶から徐々に近隣との関係が広がり、ゴミ捨てや散歩中に会話を交わすなど身近な交流が得られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は利用者さん一人一人の尊厳と人格を尊重し、最後までとぎれない心をこめて、この方の生活を支えて行きます。」という、事業所独自の理念を2年前に職員の意見を取り入れて作成した。この内容に地域とのつながりの中で暮らすことが含まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下や居間に掲げ、毎朝の申し送りで唱和している。唱和をすることで業務の中で利用者の生活を支え続ける意識が高まり、チームでケアをしていく気持ちが一つになっている。職員は対応で困った時は理念に立ち返りケアを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地域から情報を収集し、運動会、納涼祭、収穫祭などの行事に参加している。また、事業所のクリスマス会には住民の参加を呼びかけ、町内会の有志がボランティアで歌や踊りを披露した。日常の挨拶から徐々に近隣との関係が広がり、ゴミ捨てや散歩中に会話を交わすなど身近な交流が得られている。		事業所の場所を提供し、市の出前講座を開催しているが、開催頻度を多くしたいとのことなので、認知症への理解を深める機会として、住民を対象とした勉強会などの取り組みにも期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は昨年と同じように全員で取り組み、完成したものを閲覧できるようにしている。管理者は外部評価を実施した当日の様子、また結果が出た時など2回に分けてカンファレンスで報告し、今後の取り組みについて話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催され、家族代表、また利用者は交代で参加している。町内会会長や老人会会長、地域包括支援センター職員などが参加し、事業所の現状報告と今後の取り組みを説明し、外部評価の結果も詳細に報告し意見を求めている。会議を通して徐々に事業所への理解が深まり、好意的に受け止められている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には本部や管理者が出向き、主に制度的なことを相談している。事業所に地域高齢者集会所を設置し、市に出前講座の講師を依頼し地域の人に参加してもらっている。区の生活保護担当者とは来訪の際に、利用者の生活支援について話し合い解決に向けて取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「虹のたより 白石便」を発行し、主に写真を中心に行事や暮らしの様子を載せ、一緒に金銭出納のコピーも送っている。最低でも月に1回の来訪を依頼し、近況報告、職員の異動などを伝えている。緊急時や体調の変化などにはその都度、電話で連絡している。		毎月発行している通信に、個人への簡単なメッセージを載せ、職員の異動なども報告できるような紙面の工夫に期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、行事の後に家族会を開き、家族間だけで話し合う場を設けているが、参加人数が少なく特に意見などはあまりない。家族の来訪時には細かいことも良く話し合い、気軽に意見を言いやすいように接している。意見などは連絡ノートに記録し全員で把握している。また内容によっては家族、管理者、経営者と話し合い、速やかに改善している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人のグループホーム間で異動もあるが、できるだけ抑えることを運営者と話し合っている。職員の事情で退職する時は、利用者に分かってもらうように管理者から説明している。辞めた後も遊びに来てもらったり、新しい職員に関心が向くような会話をしたりして精神的なダメージに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の採用時には運営者が理念や事業方針など説明した後業務に入り、先輩職員について学んでいる。外部研修は職員の経験年数なども勘案し勤務扱いで参加している。権利擁護の研修には全員が交代で受講し、研修内容は報告書と共に勉強会としてカンファレンスで報告し、内部研修に充てている。また、少しの時間を割いて介護の方法や言葉かけなどについて学び合っている。</p>		<p>事業所内で毎月の勉強会を検討中とのことなので、その取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区のグループホーム管理者会議やケア連絡会議の研修に職員も参加し交流している。区内のグループホームネットワーク連絡網を活用し、空き状況などの情報交換が随時できるような取り組みも考えている。同業者間の交流は、まず、法人内にあるグループホームとの相互訪問で学び合うなど、身近なところから始めたいと考えている。</p>		<p>区のグループホームネットワークの連絡網を活用し同業者間の交流を広める取り組みに期待したい。また法人内での相互訪問の中で、行事などの機会に利用者も参加できるような交流に期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前に本人・家族の見学を勧め、よく利用者とも話し合い、納得して入居ができるように進めている。入居後、利用者の状態を観察する中で、不安を取り除くために必要なケアや問題を解決し、徐々に環境に慣れるようにじっくり時間をかけて対応している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>若い職員は特に料理の作り方を教わり、また昔の話からその時の暮らしを知り学ぶことが多い。入浴やシーツ交換時に利用者と2人だけの時間を共有し、思いや年長者として知恵を教えてもらっている。また夜勤の時にも気遣いの言葉で慰められるなど、職員は共に支え合う関係を大切にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人の生活スタイルを24時間シートや介護記録で全員が把握できるようにしている。発語の少ない人には会話を導き、また表情や態度を観察するなどして、その中で得た思いをカンファレンスで話し合い、個人の得意なことや意向を介護計画に反映させている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時は、介護計画作成者が家族や在宅時の関係機関、医療関係者からの情報を基に1ヶ月間の暫定計画を作成して職員と家族に説明している。1ヶ月間の本人の生活状況を把握したのちに全職員で話し合い、正式な介護計画を作成して家族とそれぞれの利用者の状況に応じて個別に説明を行い承認を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月ごとの見直しであるが、身体状況や体調の変化が大きい利用者は2ヶ月ごとに全職員でモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。また、退院後や精神状態、身体状況の変化に伴い、随時現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かして早期退院や短時間の点滴を事業所で行うなど、利用者の心身の負担が軽減できるように支援している。家族の状況に応じて、専門病院の通院介助や個別の買い物なども柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診は可能であるが、利用開始時に協力医療機関の訪問診療について説明する事で、現在は家族と本人が殆ど協力医療機関を選択している。専門的な検査などで協力医療機関以外に通院する時も、家族の状況に応じて職員が通院介助を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に説明し署名捺印を得ている。利用開始時の年齢や疾病により、看取りに関しても話し合いを持ち、主治医、家族、事業所で方針を共有している。		事業所としての看取りに関する方針を文書化する事で、職員間で確認を行い対応を共有していくように期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導は、利用者のプライバシーに配慮して耳元で声かけするようにしている。言葉かけに対する対応も、介護計画に具体的に掲載して職員で配慮するようにしている。個人記録は事務所で記録し、書類は棚に入れて保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間、ラジオ体操など1日の基本的な流れはあるが、利用者のペースを大切に無理強いしないように柔軟に対応している。ラジオやテレビを楽しんだり、居間で話をしたり歌を歌うなど、利用者の思いに沿って過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食材業者が作成しているが、利用者の好みを把握して食材を活かして献立を変更するなど、食事が楽しめるように工夫している。職員と共に野菜の皮むきやテーブル拭き、食器洗いなど利用者に応じて行っている。利用者が食べたい物などは、おやつに取り入れたり食事の献立に加えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午後から夕方まで、利用者の体調や気分に応じて週2回以上入浴できるように支援し、入浴できない時は、足浴や清拭などを行い衛生面に配慮している。利用者の意向を把握して、異性介助にも配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や洗濯物関係の手伝いの他、花の水やりや金魚を育てるなど利用者に応じて役割を持って生活している。畑で育てた野菜の収穫を楽しんだり、ボランティアで訪問するギターや尺八演奏を利用者は楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけている。冬季は、大型ショッピングセンターに買い物に行ったり、雪祭り見学など戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置して利用者の出入りを把握する事で、夜間以外は施錠を行っていない。職員は、センサーが鳴ったら窓から覗いたり、ドアの開く音などに気を配り、それぞれの利用者を把握して危険がないように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夏季は消防署の指導の下訓練を行い、冬季は自主訓練を行うなど、年間2回の避難訓練を行っている。近隣には、災害時の協力を個別に依頼している。夜間想定避難訓練は机上で行い、職員間で手順を確認している。		机上訓練を活かした夜間想定避難訓練が実施されるように期待したい。災害時の地域連絡網について運営推進会議で話し合う機会を持ち、より一層の地域連携が深められるように期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量と食事摂取量を個別に記録して職員間で情報を共有している。水分摂取が少ない利用者には、とろみをつけたり、ジュースやコーヒーなど好みの飲み物で摂取できるように工夫している。献立は、食材会社の管理栄養士が立てて栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天窓や大きな窓から明るい光が降り注ぐ2階に設けられ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫がなされている。畳敷きの和室コーナーには、昔懐かしい火鉢やちゃぶ台、茶筆筒などがあり利用者が落ち着いて過ごせるように工夫がなされている。利用者は、観葉植物を育てたり、金魚を飼育するなど自分の家と同じように穏やかな日々を送っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入口は間口を広く取り、車椅子でもスムーズに出入りができるように工夫がなされている。居室には、吊り戸棚と暖房設備、温度計を備え付け、利用者の使い慣れたタンスやテーブル、仏壇やベッドなど好みの物を配置して、本人が居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。